

# 冬の風物詩

新しい年を迎えた留萌市内も、例年になく平穏な日々が続いています。雪におおわれた副港貯木場では、ラワン材のいかだ組み作業が、寒さをつけて行なわれている。長年、市民に親しまれてきた副港も、本年から始まる埋立事業で、やがて大きく変わるだろう。冬の風物詩、いかだ組みも、やがては姿を消すだろう。しかし、新しい留萌が年々とつくりだされて行くのです。

副港埋立工事一カ年計画スタート

## 遊園地・駐車場も完備

### 約四万六千平方メートルを造成

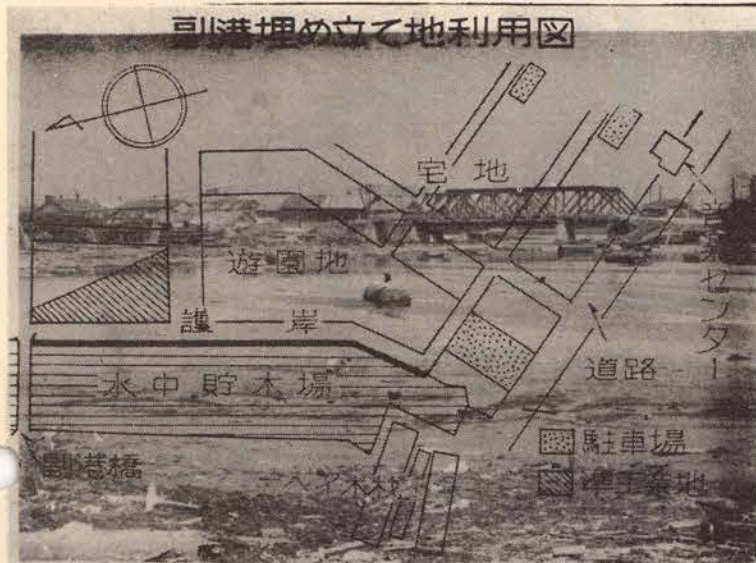
■永い間、市民に親しまれてきた留萌港副港は、いよいよ二月一日から四十七年十一月まで二カ年間で埋立工事のスタートします。造成が完了すると遊園地、駐車場、住宅地など幅広く利用され、留萌の中心部にふさわしい美観を備えます。

六平方メートル、これとすでにある市有地三万四千四百八十九平方メートルをあわせ、四万六千四百四十六平方メートルを造成します。

護岸敷地四百四十九平方メートル、排水路敷地百七十五平方メートル、道路敷地九千六百五十三平方メートル、駐車場敷地二千五百七十七平方メートル、遊園地敷地六千九百平方メートル、準工業地三千七百九十五平方メートル、宅地敷地一万七千五百十三平方メートルが区分敷地されています。

しかし、周辺には合板工場が立地されており、昭和五十年には、南洋材消費料十五万トンが予定されているので、これに当たる貯木水面積一万二千四百五十五平方メートルが残り、ここに鋼矢板を入れ、高さ一・五メートルコンクリート護岸をします。

また、副港には、花園川など四本の水路が流されていますが、埋立て地背後に排水溝を設けます。いづれにしても、悪臭の源といわれてきた副港が、あと三年後には、遊園地が敷設され、駐車場が、住宅が立ち並ぶ環境が整備され、市中心地として、市民の憩いの場が造られる日はもうすぐです。



大きく生まれかわる副港周辺と造成予想図

副港埋立工事は、留萌市総合都市計画（昭和六十年まで）の一環である駅前土地区画整理事業として行なうものです。

「副港」というと、たいていの人は、よごれた水、夏は悪臭の発生源と云われてきましたが、この工事が完成しますと、市民生活のオアシスとして、広く利用できる地区にかわります。

現在の副港は、大正十四年に掘られたもので、当時は「三段式港湾」といわれ我が国では珍しいといわれたものです。

外港は大型船舶の停泊地として、また、内港は南北両岸を、石炭、雑貨、木材などの貨物取扱地、そして副港は、当時、最盛期であ

ったニシン漁で、ワク船がにぎわいました。

人々に豪華の夢を与えたこの副港も、やがてニシンの不漁に伴ない、昭和二十九年ごろからは、水中貯木場として利用されています。

現在、水面積二万六千五百七十一平方メートルあり、水中貯木場として年間約三万三千トン（四十四年度実績）の外材を取扱っています。

しかし、長年にわたる市街地からの排水や浮遊物、土砂の流れこみで、ヘドロ状態になり、悪臭など市中心部の環境としては不衛生なため、ことしから二カ年計画で埋立て工事をすることになりました。

埋立て面積は、一万四千五百五十

## 市長新年随想

# 71年のあゆみ

留萌市長 原田 栄一



青年都市「留萌」は、また新しい二十四歳の新年を迎え、一歩を踏み出しました。

「万国博」に明け、公害、物価交通問題と騒がれた七十年への朝明けだった昨年にくらべ、なんとも平穏に明けた七十一年に、新たな気持がわいてきます。

私が皆さんの大切な市政をお預りしてから、十年目の年を迎えましたが、留萌市が、昭和二十二年道内十二番目の市として誕生してから、早くも二十四年過ぎたわけ

です。

「二十四歳」人であれば、社会人としてその責任を問われ、社会の中核として活躍している年令でしょう。

今、道北の門戸として、脚光をあびている留萌も、やはり活躍が期待されています。

それだけに、私たちに、留萌市民に果せられた役割りは大きなもの

です。

この「青年留萌」が発展することは、即ち、市民生活の向上であり

より発展するためには、私たち留萌市民が、郷土愛を忘れてはならないと考えます。

昨年行なわれた国勢調査での人口減は、全道的傾向とはいえ、市政進展の上で、大きな負担となることは申すまでもありません。

しかし、このことは「斜陽の街」ではないと考えています。

道北の経済を担うまでに生長した留萌港を中心に、管内随一の市として、近隣町村と協力し、広域行政の実現に努めなければと考え

ています。

そうすることにより、やがてこの日本海の海原に、全道の、いや全国の人々の目を向かせる日がくるのは、そう遠くはないと期待しています。

人生にとっても、青年期こそ修練の年です。

二十四歳の留萌「ブラボー留萌」と皆さんと叫び、現実を見つめながら明日への飛躍を……すばらしい可能性を秘めた七十一

さる、昭和40年4月に、留萌市史編さん業務が発足してから5ヶ年、ついに留萌市の歩みが一冊の本として発行されました。

これが「留萌市史」です。昭和42年に迎えた留萌開基90年、市政施行20周年の記念事業として発行を計画したものです。

完成された留萌市史（編さん委員代表・中川通氏）は、B5版の大きさ、表誌は濃紺布貼り、グラビアの他に、風土と自然など5編862ページです。

- 第1編 風土と自然
- 第2編 往時のエピソード
- 第3編 政治と行政

### 第4編 産業と経済

### 第5編 社会と文化

など、留萌市の全般にわたる歴史が、余すところなくおさめられています。

とくに「大留萌建設」に尽くされた人々など、また行政では「戸長制時代の留萌」など、資料もふんだんに盛り込まれており、見る人を楽しませてくれるでしょう。

市では、この留萌市史を1,000部作成しましたが、部数限定の上、市民の方にも販売することを計画しています。

（詳しくは広報2月号でお知らせいたします）

## 留萌市史が完成

ひと目でわかる留萌の昔と今